

ふるさと交友録

～伊藤 公平～ 15

「ふるさと」には、いろいろなひとがいる。この「交友録」では、月1回のペースで公平さんの“大切なひとびと”を紹介していきます。



3年前のクラス会、定山溪にて

伊藤公平(いとうこうへい)北見市在住、郷土史
研究家。私設図書館「麦の風文庫」と「野草苑が
あでんきたみ」主宰。平成13年、20年、みんとに
「ふるさと四方山話」「ふるさと、そぞろ歩る記」
を連載。道新「ときわぎ」執筆者の一人。

もう一人、フルート奏者の知人がいる。小室圭子、旧姓牧野。オサムと同じく小学校以来の友である。父圭佑氏は尺八の名手、お母さんは箏だったか三味線だったかのお師匠さん。圭子はピアノ、妹さんも何かをやっていたから、文字通りの音楽一家である。

◇

一寸脱線。大正末期、私の伯父常蔵は温根湯の大江平吉さん購入のフォード箱型を留辺蘂との間に運行させた後、野付牛町でタクシー会社を設立した。共に管内で最初のことである。突飛で奇行の多い人だったが、赤字を父(私の祖父)に埋めてもらいながらも、公共のためと、それにこだわった人だった。昭和六年、町内のいくつかの小会社が合併して野付牛自動車(株)が設立された。おじもこれに参画した。

圭佑氏はこの時の入社である。牧野家と伊藤家の縁はこの年に始まった訳だ。その後の圭佑氏は北見バスの専務取締役役まで上り、バスガイドといえば北見バスといわれるまでの名ガイドを大勢育てた人である。

◇

圭子は音楽学校に入り、最初に歌わされ弾かされたりした結果、肺活量がすばらしい、管楽器を専攻しなさいと助言されてフルート吹きになった。才能にも恵まれてフルートの講師になった。圭子のフルートは度しか聴いた事がないので、なんとも言いようもないが、別の友の言うには、圭子の指導は生徒に大層評判がいいそうである。ずっと以前、私の「フキノトウ」という短詩に「民謡風で歌いやすい」曲をつけてくれたが、専門家にはそういう曲かもしれないが、素人の私にはどうも今一つであった。

何はともあれ、圭子はギリシヤへの演奏旅行があるので、クラス会を欠席した。

圭子はお喋りである。次から次、話題をうなぎながら、よくまア喋る。うんざりさせないお喋りだから、才能といつていいのだろう。

父圭佑氏はガイドさんに、相手に心地よく伝わる喋り方を、まさに社運をかけて教えてきたが、以心伝心、それが娘圭子にも伝わったのかもしれない。圭子のお喋りの聞こえないクラス会はちよっぴりさみしかった。